

群馬県国民保護フォーラム

【質疑・応答】

(質問)

森本先生に質問したいと思います。一般の人に向けて話をしているものかと考えたのですが、北朝鮮から飛んでくるミサイルをですね、100%迎撃出来ない場合は、例えばスタンダードミサイルの中に小型の戦術核を仕込んで、ミサイルに100%命中しなくても敵から発射されたものは撃破出来るということを考えて方がいいのではないかと個人的に思っているんですけど。

もう一つイラクの話が出たのですが、今の段階で米軍に協力した人たちは、旧フセイン政権の人たちにテロリストに皆殺しにされてしまうという状況にありますので、米軍が撤退出来ないという厳しい状況がある訳ですけども、北朝鮮に対しての軍事的なオペレーションなどは、イラクから米軍が撤退した後と見るべきなのでしょうか。

ここまで踏み込んだ話をしているか分からないのですが、先生お願いします。

(森本先生回答)

危機管理と相当離れる問題ですが、そういうご関心があれば逃げて帰る訳にはいきませんから、自分の専門の分野なのでお話しすると、最初の北朝鮮のミサイルというものについて、どういふふうには日本は考えているかということ、ミサイルがある日突然飛んで来るなどということは、現実の国際政治の中で考えにくい。北朝鮮のミサイルはまだ、固形燃料ではなく、液体燃料型のミサイルなのです。液体型のミサイルというのは、ケロシンに近い燃料をミサイルのロケットに注入して30分以内に発射しないとケロシンが酸化して推力が出ないのです。注入を始めて全部注入が完了して、30分以内に発射してはじめて大気圏の中に突入し、弾道を描いてもう一度再突入して落ちる、こういうミサイルです。ということは、ロケットランチャーにミサイルを置いて、液体燃料をミサイルに注入する作業は人工衛星で分かります。燃料車が近づいて来て、燃料補給を2時間から3時間かけてやります。全部終わって30分以内に発射されるということですから、燃料車が近づいて来て燃料補給がされる場所が分かります。 どうして分かるかということ、実はアメリカはこの地域に静止衛星と移動衛星を持っていて、静止衛星は10万キロぐらいからずっと落とすことが出来ます。ですがしょっちゅう落とすと衛星そのものにももの凄いエネルギーを使ってしまうので、衛星の寿命がもの凄く短くなる。あまりしたくないのですが重要な時には落とします。落とすと解像度はもの凄く高くなって、解像度は3センチくらいになります。したがって、燃料補給している状態というのが分かるようになります。

アメリカのシステムズコマンドが早期警戒用の衛星によって収集した情報をシンクパコムと言ってハワイの太平洋軍を經由して米軍に知らされ、日本に入って来ます。したがって、その時点で必要な対応をとるのですが、しかしながらその北朝鮮のミサイルがどこに行くかそういうことはまだ分からない。というのは、直上して行って、そこからアメリカに行くかもしれない。どこに向かうかは直上している時に初めて分かるのです。そうってから日本に着弾するのが7分半

です。エクスパンドレーダーと日本のレーダーで直上しているということを探知するのは発射後の話ですが、1発目が撃たれるか撃たれる前に日米はそれに対応出来る。訓練では駄目ですが、訓練であるかどうかどうやって分かるかというと、ミサイルそのものの体型でどれだけの推進薬が入っているかある程度計算出来ますので、ペーロードを見た場合に日本海に落ちるかあるいは飛び越えるかということ弾道計算し、これは日本の領土に直接入るものではないなと分かった時は警戒ですけども、日本の領土に間違いなく落ちると計算された場合、その発射機つまりランチャーそのものをこちらからミサイルで攻撃して、破壊することは国際法上は自衛権行使と見なされる。仮にこれが相手の国の領土に入ってもそのように考えています。さて、今おっしゃったように北朝鮮からミサイルが撃たれた時に直接攻撃するというのはそういうことしかない。ただし、日本にも手段はあるが、もの凄く難しい話なんです。日本の戦闘機は、航空機から攻撃するASMと言って航空機から撃てる対地用のミサイルは持っていません。対地攻撃用の爆弾はいいけどミサイルは持ってはいかんといいことで持たされてないので、訓練も出来ていないということです。ロケットは持っている。ロケットは対地攻撃用を持っていますがロケットでは十分破壊出来ない。一方、一番望ましいのは艦艇を近寄らせて艦艇から攻撃するというものなのですが、艦艇が地上のミサイルに攻撃するミサイルも艦対地のミサイルも持たされていません。つまり日本は敵地を攻撃する兵器を持つ必要がないという考えで予算を認めていません。したがって、ただ1つしか方法はありません。今のところはF15に、F4は届くのですが帰れない。日本海に落ちてしまう。空中給油機が必要な訳で、F15はオペレーションして戻って来るだけの航続距離がありますので、F15に必要な爆弾持って行って、低空で飛んで行って、低空で飛ぶと酸素の密度が高いので、もの凄い勢いで燃料を消費してしまうのですが、高々度で行くと相手のミサイルの攻撃を受けますので、低空を飛んで行ってミサイルレーダーを避けて、ランチャーだけを壊して戻って来ることは論理的には出来ます。そういう攻撃命令を日本は出すかという僕はそういうことはしないとします。それが答えです。

2番目は、イラクというのはどのようになっているのかと言うと、来月は国民議会の選挙です。その結果として政党政府が来年の3月頃に出来ます。議会選挙が終わって新しい政権が大統領、副大統領、首相これをシーア派とスンニ派とクルド族の3派の連合政権として構成するのにざっと2ヶ月以上かかります。その新しい政府が、今おっしゃったように、特にその中でも、アメリカによって作られたと彼らは思っている。実際そうではないです。初めて国民議会をやって国民が直接選挙をやって選ばれた議員の中から、ある種の日本の議員内閣制のように、議員の中から大統領、副大統領を彼らの合意の中で選ばれる訳ですから、イラク人が自ら選んだ指導者の中から政権を作る訳なんですから、それはまさに最初の政党政府が出来る訳です。その政党政府がスンニ派のメンバーが非常に不平等に差別されているということだと、スンニ派の支持母体であるイスラムのテロリストたちが、閣僚を攻撃したり政府そのものの活動を損なったりするテロ活動を行うという蓋然性は依然としてあります。その前に選挙そのものを妨害するという活動もありますが、これは今年1月に行われた選挙の体験から言うと、イラク人はいかなる事情があっても投票所へ行きます。テロがあっても選挙へと。相当勇敢ですからイラク人は。

この時新しい政府が多国籍軍をどうするか、最初に決断していくと思います。つまりもう他国籍軍はもういらぬ、自分たちの力で何とかやっていきます、みんなお帰りくださいという決断。もう一つはアメリカ軍がちょっとだけいてね、という決断。今25カ国から17万8千人、うち米軍は13万1千人なんです。アメリカは軍をもっと減らしてもいいです、多国籍軍は帰って

もいいという決断をするか。第3は、人道復興支援でやってください、後は治安は自分たちでやる。現在イラクの治安軍は全部で20万になりました。これをアメリカは36万まで教育して自分の力でどうにかなる所までもって行って手を離してやろうと思っている。それにはいつまでかかるかという、アメリカ国防省の説明だと2010年、まだ5年かかる。しかし、今の状態をそのまま維持することはないと。アメリカの国内でもかなりイラク反戦デモというのは出てきますから、ブッシュ政権の支持率の低下を考えると今の兵力レベルを維持出来ないということだと思いますので、兵力は減らしていくと思いますが。

日本にとっていえば、イラクの自衛隊を来年、今のところは中部方面総監隷下の部隊が出てますが、これが来年の3月まで行われ、その後、東部方面総監隷下の部隊が出て行って、撤収するかどうかは総理の決断しだい。総理が年内に決断しても撤収の準備を完了するのに3ヶ月かかりますので、どう考えても一番早くて来年の4月ぐらいだと思います。その時にイラクからイラクの南部サマワからイギリス軍がアフガンに転進します。オーストラリア軍は4月から5月にかけて全軍撤退します。したがって、自衛隊を守っている広域の警備軍はいなくなりますので自衛隊をそのまま置いておくかどうかは難しい。防衛庁の上層部は早く引かせてあげたいと思っている。総理は、先週行われた日米首脳会談でブッシュ大統領に約束しているので、この官邸と防衛庁の駆け引きがどういう形になるのか。おそらく非常に高度な政治問題になる。

一方、今あなたがおっしゃったように、イラクからアメリカが退避したら北朝鮮になるのか。なりません。今のブッシュ政権には北朝鮮に軍事的に手を出す考えはありません。北朝鮮は6カ国協議の合意を9月に受け入れ、結果としてアメリカは北朝鮮に武力攻撃をしないということと中国にも北朝鮮にも約束してしまったので、今、中国は安心して北朝鮮の資源開発に乗り出しています。今まで北朝鮮は外国資本を入れないでいたが、初めて中国の技術者を入れて、中国の資源開発がどんどん進んで、北朝鮮の政権が生き返って来るという状況がこれから起こると思います。したがって、アメリカはこういう北朝鮮に軍事的に手を出す余裕もなければその意図もない。

これが僕の答えです。この2番目の答えは非常にはっきりしている。1番目の答えはきわめて曖昧であります。